

◆4番（小川義昭君） 「秋風の山をまはるや鐘の声」恒例の千代女の句でございます。

秋の夕べ、山の木立を風が吹き渡り、風とともに梵鐘の音がゆったりと山を回るように響いてきます。山中温泉に遊んだ千代女が、薬師堂のあたりをそぞろ歩きしたときの句です。薬師への信仰と相まって、風と鐘の音が山をめぐり、大いなる自然の移ろいを奏でています。その肅然とした味わいは、俳句には門外漢の私には、先般の総選挙に見る中央政治の激変ぶりと重なり合って、俗世への警鐘にも感じられます。

地方政治、地方自治体を担う一人として、昨秋以来の世界経済の混乱、現今の我が国の政治経済の激変に、過ちなく対処していく責任を改めて痛感しているところであります。

くしくも昨日9月8日は千代女の命日であり、235回忌がしめやかにとり行われたそうでございます。

さて、今議会の私の一般質問は、本市の文化政策について5項目行います。

まず1つ目は、白山市文化創生都市宣言以来の施策についてお尋ねします。

私は、平成19年9月議会において、市長に対し、市民憲章の制定と文化創造都市の宣言を提言し、関連質問を行いました。これに対し、市長は、市民各層の意見を踏まえ、翌年の平成20年3月には文化創生都市宣言を行い、引き続き11月に市民憲章を制定されました。

以来、平成20年と平成21年度前半を経過しておりますが、宣言に沿った関係施策の実績はどのようなものでしょうか。宣言は、文化を生かした産業振興・観光振興、市民への文化意識の醸成を基調としたまちづくりの推進をうたっております。改めて文化創生都市に対する市長のお考えと、宣言後の実績及び今後の展開方針をお伺いいたします。

2つ目は、文化創生と産業振興「まちづくり」の両輪性・一体性についてであります。

文化を振興することは、まちの魅力を高め、発信する有力な要素であり、市民力やまちの経済力の基盤であります。まちの経済力、農業、工業、商業の振興は、豊かな文化をはぐくむ原動力でもあります。文化の力と産業の力は、本市のまちづくりの両輪どころか、表裏一体なのだという認識が必要だと考えます。

前の質問で、文化創生都市宣言の実績や将来展望について触れましたが、この一体性の認識と一体施策、一体組織については、まだまだ議論や認識が不十分であり、いま一步を踏み出す気構えや迫力が感じられないのが正直なところであります。

金沢市の文化政策と、まちの活力や産業政策は、両輪どころかその表裏一体性は、産業団体、民間企業、市民を取り込み、行政組織をも含む展開体制にまで貫徹している印象です。行政や人口、文化資源の規模など格段の違いはありますが、本市においても市民の議論を喚起しながら、この両輪・一体施策へ踏み込むことが肝要と考えます。

昨今、市財政改革、健全化政策のもとで、地域の祭りや民俗芸能に対する公共支援が削除、減額されて、規模の縮小や継続を断念する地区があります。文化とまちの活力の両輪

性どころか、合併後の本市総合計画の柱に据えた山間地過疎対策の理念をも揺るがしかねません。歴史文化の継承に対する自助努力を断絶させず、地域の活力創生に資することも重要かと考えます。

そうした中、10月10日、11日の両日、第12回全国獅子舞フェスティバル・白山市が、白山市制5周年記念行事として開催されます。この大会の第1回目は、当時の鶴来町で行われました。11日の本番には、市内の旧地域の垣根を越えて、山ろく・鶴来・美川・松任地区から15団体、石川県内から4団体、県外からは新潟市の角兵衛獅子など、岩手、長野、香川の4団体、合計23団体がJR松任駅前に集結、周辺市街地に繰り出します。前日の10日、鶴来地区のパーク獅子吼で行われる獅子舞シンポジウムには、県内外の民俗学者や地元獅子舞保存団体代表らが聴衆とともに意見を交わすそうですが、今回の記念行事を単なる一発主義で終わることなく、獅子舞の学術的な位置づけや、白山市における課題を探り、民俗文化の存続継承につないでいくことが必要かと考えます。白山市の文化、歴史を開く機会として大いに期待したいと思います。

さらに、この大会は、市内獅子舞団体を中心に、行政、商工団体、市民団体などが一体となり企画・運営に携わり、会場周辺では市内の物産市が開かれるとのことでもあり、まさに文化創生と産業まちづくりの両輪性・一体性への志向とも言えます。今後の本市の地域活性化の一手法として、文化と産業が共存するまちづくりを行っていくことが大切と考えますが、市長のお考えをお伺いいたします。

3つ目は、文化創生策と都市計画マスタープランであります。

プランは今年度中の策定をめぐり、各地区の地域構想とともに住民説明会が行われています。もとより各地域の文化芸術の重要性にも言及しながら、文化遺産や施設の充実が指摘されています。しかし、民俗文化的な祭り、行事の保存継承について、住民サイドの議論喚起や現状把握が積極的に行われているかといえ、必ずしも十分とは言えないのではないのでしょうか。合併で旧地域が継承してきた無形民俗文化への熱気が希薄化し、住民による保存・継承活動が難しくなっていることが、民俗学団体の全国的な調査でも指摘され、文化庁・総務省などの政府に対応を求め、当局も問題性を認識して対策の検討に入っていると聞きます。

伝統文化の希薄化に抗して、従来の保存・継承活動やその組織を見直し、自助努力の継続を促すとともに、まちづくり都市計画マスタープランの中に、新しいお祭り広場や文化芸能などの習得・発表施設を組み込むことも考えられます。文化と産業力、まちづくりの両輪性・一体性に着目した議論喚起によって、より強力な住民の自助努力、組織の構築を促すプランづくりを望むものです。市長のお考えをお伺いします。

4つ目は、松任駅周辺の文化ゾーンと住民参加による地域活性化策です。

まず、現状について質問します。

JR松任駅の南北で進められている土地区画整理事業は、北陸新幹線、白山総合車両基地の平成26年度末開業を目指して、駅南北地区の分断を解消するための地下道路トンネル

工事中の都市計画道路、金剣線ほか南北自由通路、橋上駅の整備など、工事は大きな山場に差しかかっています。

この中で、駅南地区を見ると、昨年、駅南広場、駅前ロータリーが完成し、都市計画道路金沢小松線の整備に続いて、現在、駅南地区のシンボルロードとなる蕪城通り線の整備により、松任駅から千代尼通り商店街が結ばれようとしています。さきの全国獅子舞フェスティバルは、面目一新した駅南地区を会場に開催しようとしているのです。

この駅南地区は、文化ゾーンと言われています。それは次のような文化施設が集積してきたからです。旧松任時代から城下町、市街地を形成、町役場、市役所の所在地でもあった歴史を反映しています。松任駅近くから列記しますと、中川一政記念美術館、松任ふるさと館、千代女の里俳句館、市民工房うるわし、松任図書館、コンサートホールを有する学習センター、松任文化会館、松任博物館、松任城址公園、プラスあさがおと、10の公共施設が続きます。旧松任市時代から新市白山市になっても、本市の文化芸術活動の中心的な役割を担っていることは否定できないでしょう。

そこで、これらの利活用状況をお聞きします。有料・無料などの施設によって条件は異なりますが、入場者の経年変化や利活用促進努力など、今後の課題も含めてお答えください。

ところで、これらの施設それぞれについて利活用の促進に努力していると思いますが、私が特に問題提起したいのは、文化ゾーンのメリットに着目した利活用の促進策でありませう。施設間の連携・協同関係はどうか。例えば事前の企画テーマの検討、各館連携したPR体制など、相互・一体的な施策の協議などが行われているのか。個別の施設の報告誌や案内マップチラシは散見されますが、予算のつかない施設は取り残されるといったことはないのか。

市内外の来訪者からは、「JR松任駅、バス停、立体駐車場からこんなに近く、まちへの散策も含め、半日、1日は十分楽しめる環境なのに、周遊サイン、案内板、企画案内や観光マップがないものは珍しい。駅にもないのですね」といった批判を耳にしました。各施設の規模や周遊延長はそれほど大きく長いわけではないのですから、施設集積メリットを生かした連携・一体的な交流・管理体制を検討すべきと考えます。

例えば、今申し上げました中川一政記念美術館を初め10の施設を傘下に統合管理するミュージアムまっとう、これは仮称であります。このようなものを組織し、一館長のもとで松任駅前文化ゾーンのメリット、にぎわいをさらに追求する一体的な運営管理も考えられると思います。市長はいかがお考えでしょうか、お伺いします。

以上は、施設間の運営・管理面についてでしたが、より大きな問題点は、先にも触れました文化と産業まちづくりの両輪性・一体性への取り組みであります。

さきに述べました市関連施設のほか、周辺のネタを拾ってみますと、聖興寺・千代尼塚、松任本陣跡、福増屋幸右衛門居宅跡、千代女居宅跡、市街寺院群、そして私がここで特に推奨したいのが和菓子街道、千代尼通りです。数百メートルに9軒もの和菓子屋さんとの

れんを守っています。注目すべき菓子文化の集積通りなんです。これを生かさないうで、文化と産業のまちづくりといってもむなしいでしょう。前に指摘した各施設間の連携・一体性の中に、これらの民間の文化財、民間人、団体などを取り込むなど、白山市唯一の文化ゾーンの名に恥じない発信策に直ちに取り組んでいただきたいと考えます。

そのためには、狭い従来型の文化行政のお高く構えている高踏性や、各施設の甲羅に閉じこもった閉鎖性からの脱皮や、職員の意識転換は不可欠でしよう。地域住民、商店街との協議の場を呼びかけるなど、まちに飛び込み、まちに生きる文化とともに、文化ゾーン価値の発掘・高揚に努めるよう強く要請いたします。市長の見解をお伺いいたします。

最後の質問は、本市における文化創生に関する条例制定、計画策定、基金設置についてであります。

国は、国民の文化芸術に関する関心の高まりを受け、その基本となる事項を定めるため、平成 13 年 12 月に文化芸術振興基本法を策定しました。同法の趣旨は、国及び地方公共団体の責務を規定し、地方公共団体は、国の施策を勘案し、その地域の特性に応じた文化芸術の振興のために必要な施策を推進するよう努めるものと定めております。

また、文化芸術は国民全体の社会的な財産であり、個人や民間企業、団体、国及び地方公共団体などが、それぞれ文化芸術の担い手であることを認識し、相互に連携協力して社会全体でその振興を図っていく必要があるとしています。

こうした趣旨を受けて、本市の平成 20 年 3 月の文化創生都市宣言では、長い歴史に培われてきた本市の文化、風土など多様な地域資源や有為の人材を生かした活動を展開し、地域に息づく文化のエネルギーをもとに、新たな魅力と輝きを生み出すまちづくりに積極的に取り組むことを宣言しています。この点は、平成 19 年 3 月の白山市総合計画にうたわれた将来都市像に基づくものであり、将来都市像の実現に大いに寄与すべき方針と言えます。

本市は既に国の文化芸術振興基本法に基づいて、市総合計画、文化創生都市宣言へと展開、成文化してきたところであり、さらに市文化芸術振興条例の制定、市文化芸術振興計画の策定、そして基金の設置へと進めていくことが考えられます。しかし、今回の問題で取り上げましたように、文化と産業振興「まちづくり」の両輪・一体性については、なお、行政、市民双方の認識にはまだ未成熟さがあるように思いますので、市役所内や市民間の議論や体験が生かされる形で、条例制定・計画策定へとつなげるべきと考えます。条例先行、内容後回しではなく、ここは内容充実を優先させることによって、条例制定・計画策定が早まることを期待します。市長の現時点でのお考えはいかがか、お伺いします。

文化芸術の秋たけなわです。しかし、中央政界は政権交代国会が開催され、かつてない激動の秋です。地方自治体にはいかなる影響があるか、住民・市民の目線から冷静に分析・判断し、激しい変化に対処していかなければならないと、改めて気を引き締めております。

以上で、私の一般質問を終わります。